

研究課題「精神科入院・外来処方箋における処方内容の多剤併用療法の推移」に関する情報公開

1. 研究の対象

1997年1月1日～2026年1月15日に精神科外来を受診または精神科病棟に入院され、処方を受けた方

2. 研究目的・方法

精神科領域の薬物療法の問題点の一つとして、多剤併用大量処方があります。処方薬の種類や投与量が増えると、期待通りの治療効果が出ずに副作用の発現リスクが上昇する、服用方法が複雑になり指示通り服薬を継続できない、患者さんの生活の質（QOL）が低下するなど、多くの弊害が生じる可能性があります。近年、新規向精神薬の開発や治療ガイドラインの整備が進み、多剤併用大量処方から単剤処方が強く推奨されるようになってきました。本研究では、精神科外来または精神科病棟における薬物療法の内容を集計し、多剤併用大量処方から単剤処方への変遷と治療経過との関連性を調査することにより、安全で効果的な薬物療法の提供につながる情報を発信する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：診療番号、生年月日、年齢、性別、イニシャル、病歴、治療歴（処方内容：薬剤名、薬効分類、用法用量、等価換算量等）、有害事象等の発生状況、臨床検査値（血液・生理検査等）、生活歴（飲酒、喫煙等）、心理・画像所見 等

4. 外部への試料・情報の提供

他施設への情報の提供は、個人が特定されないように匿名化・暗号化して特定の関係者以外閲覧できない状態で電子媒体を用いて行います。情報の集計・調査中に必要となる対応表は、研究代表施設の研究責任者が保管・管理しますが、集計が終わった段階で随時、連結不可能匿名化を行い、対応表を復元不可能な形で廃棄します。

5. 研究組織

名古屋大学医学部附属病院精神科（尾崎紀夫）

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野（吉見 陽）

名古屋大学医学部附属病院・薬剤部（宮崎雅之、堀田彰悟、肥田裕文）、

名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学講座・名城大学薬学部病態解析学Ⅰ（野田幸裕）

精神科臨床薬学研究会（吉尾俊）

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

連絡先担当者：

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野客員研究者 吉見陽

(名城大学薬学部・大学院薬学研究科 病態解析学 I 助教)

住所：愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学医学部附属病院外来棟 4 階

名城大学薬学部サテライトセミナー室

電話：052-741-6022

研究責任者・研究代表者：

名古屋大学医学部附属病院精神科教授 尾崎紀夫